

サロンのあべの

VOL.167

ピア・カウンセリングセンターの取り組み

△サロン・あべの△4月の出会い

平成12年4月15日(土)午後1時からの△サロン・あべの△4月の出会いは、「障害者自立生活援助センター・とよなか」の代表を

話をするかと思いました。

自己紹介

小・中・高校と養護学校で学び、大学は社会福祉関係の学部ができた佛教大学に進学した。

学生時代に新聞で「大阪の地下鉄にエレベーターを！」の記事を見てグループへ参加した。

その後「おおさか行動する障害者応援センター」で15年ほど活動し、車椅子ガイドマップの作

成に参加したり、いろいろなことにも関わってきた。今は「障害者自立生活援助センター・とよなか」の運営をしている。

自分自身の自立

昔、他の障害者に「早く自立せえ！」としきりに言っていた。なのに、自分は親元に居た。9年くらい前から親が介護をしないとと言うようになっていた。

ある日、帰宅した自分を両親が抱きかかえて座敷に上りかけた時、落とされた。落とされた瞬間、自分も親ももう限界だと思

った。そして、両親から「介護はもう出来んようになるから、お前は出ていけ」と言われた。

それでやっと自分の生活について考え始めた。このままでは親

子共倒れになることは解ってい

た。まず、家を探すことから始めた。不動産屋に行き、電動車椅子で生活できるように改造し

てもよいといってくれる家主を探すのに何十軒も回った。生活

するための住まいでありながら、障害者が住むというだけで火気厳禁などと言われたりもしたが、やっと条件に合う文化住宅を借りることができた。二つの部屋を借りて、間の壁を取り除き一つの部屋に改造。車椅子でも楽に動ける広さを確保した。資金

面は、豊中市の制度を活用した。介護は150時間までヘルパー

の経費負担する制度を利用し、介護者を探した。介護者探しは、

応援センターの知り合いに声をかけた。一カ月に30人、一日一



ピア・カウンセリングについて話す大友さん

人の割で探した。市からは週に3回ホームヘルパーに来てもらった。これらの経験をこれから自立していく障害者に伝えていきたいと考えて、自立生活センター作りへと進んでいった。

ピア・カウンセリングとは
ピア・カウンセリングは1970年頃アメリカで始まり、1985年頃に日本に入ってきたピア・カウンセリングの「ピア」は同じとか同等という意味

があり、セルフヘルプグループの中での対話的なサポートを中心とした関わりが「ピア・カウンセリング」と呼ばれている。ピア・カウンセリングの概念的特徴として

①心理臨床の専門家以外の人々によって行われるカウンセリング的援助活動(ノンプロフェシヨナル)、

②患者、もしくはその家族など同じ問題を共有する人々によって行われる相互援助活動、
③いのちの電話相談、地域ボランティアなど、

主として援助活動を行うために組織された市民レベルの活動などがあげられる。

ピア・カウンセリングとの
出会い

京都でピア・カウンセリングの集中講座に参加したが、その

時は、みんなの前で自分の傷をさらけ出して、感情を顕にするもので、その手法を受け入れることができなかった。豊中で自立生活センターを立ち上げる際に、ピア・カウンセリングが必要なのもう一度勉強をやりなおした。この時の講師のやり方が自分に合っていた。

それは、講座中は介護者を入れず、ゆったりとした形でやってくれたこと。厳しさを楽しさに変えるのを感じられたことがよかった。

ピア・カウンセリングの方法
1. 安全性の確保

相手を受け入れて話を聞くのだから、プライバシーは守る
2. 時間の共有

相手と同等の立場でゆっくり話せる時間を共有する。
3. アドバイスは避ける

相手の本質を知ることができないから、アドバイスは先に出さない。聞かれた時は自分の経験を言う。

4. 目標の設定
今までの傷や抑圧を出し、将来の生活をどう創っていくかを考える。

5. それぞれの役割を知る
相手の立場を理解してお互いに信頼できる人が対応する。相手の話を聞くことから始まるので、相手の「言葉どりはしてはいけない。

以上のことを認識して、ピア・カウンセリングが始まる。

「障害者自立生活援助センター」とよなか」について
誰もが当たり前地域で暮らせる社会を目指して93年に発足した。住宅や福祉機器などの情報提供、介護者の派遣事業を行

っている。また、市の「障害者生活支援事業」を受託。「ピア・カウンセリング」・「自立生活プログラム」などの活動を通

じてどんな重度の障害を持つ人 この日は、あいにくの小雨が という感想も出て、和やかなサ
でも地域で生活できるように積 降っていましたが、参加者から ロン時間を過ごしました。
極的に支援活動をしている。 「久しぶりに大友さんに会うこ 参加者12名(山村貴司)
とができた」とか「懐かしい」

「サロン・あべの」の活動は？ 2

うえひら☆ゆきお

〈サロン・あべの〉がもたらすもの
〈サロン・あべの〉に集う障害者は、明るい。そう思いませんか。まるで、自分の障害を楽しんでいるかのようです。逆に、健常者の方が、何か問題を抱えているように見えてしまいます。それほど、障害者が、生き生きと参加しています。

ここでは、「出会い」の参加者を、四つのグループに分類してみます。

- ・運営委員として参加している障害者
- ・運営委員として参加している健常者
- ・一般参加の障害者
- ・一般参加の健常者

これら、それぞれのグループについて、

〈サロン・あべの〉での、ポジションが、どんなものかを考えてみます。

運営委員の中で、実際に「出会い」に参加している障害者は、毎月五、六名です。彼らの共通点は、他者への深い思いやりと、自己理解です。障害をもつ当事者でもある彼らは、ボランティア活動をする上で、自分自身が苦しかった頃のことをベースに、相手の苦悩を理解することが出来ます。自分というものを抑えた上で、相手の事を考えられるという、ある種の余裕のようなものをもっています。

彼らのほとんどは、〈サロン・あべの〉の活動をする以前にも、他の障害者団体に

所属して活動をしていました。自分自身の障害について徹底的に悩み抜き、生活者として必要な知識と人間関係について、学んできた人たちです。しかし、その段階では、まだ、自分自身の欲求や障害者問題にのみとらわれている状態でした。そんな彼らにとって、〈サロン・あべの〉は、自分とは違う障害種別の人や、障害程度の違う人との出会いの場でした。また、障害者問題以外にも、世の中には色々な社会問題があり、悩みをかかえているのは、障害者だけではなくということを知る、学習の場でもありました。同時に、障害者である自分自身にもボランティア活動が可能であり、障害者自身がボランティアとして他者を援助する事で、社会貢献が可能であることを、体験的に知る場にもなりました。

つまり〈サロン・あべの〉の運営を通じ

て彼らが得たものは、「障害者でもできる事」から、「障害者だからできる事」の発見でした。その結果として、彼らは障害者として生まれてきた「ポジション」をも発見したのです。

運営委員として参加している健常者。彼らの多くは、これまでも他の障害者団体でボランティアを経験しています。ですから障害者介助については、みなさんベテランだと言えます。その障害者団体での健常者の位置付けを考えてみましょう。

障害者が、自分でできないところを、健常者であるボランティアにやってもらおう。ごく当然のことのようですが、その間にも人間関係が存在しているのです。障害者が気をつけなければならないのは、「してもらって当然」と、勘違いしてしまうことです。障害者が命令し、健常者はその命令に従うだけ。そんな上下関係のようになってしまうことがあります。

また、もう一方で、ボランティアの確保を優先するあまり、障害者の側が健常者を甘やかす場合があります。これも結果として、ボランティアである健常者が、障害者

サロンの 全部がわかります。



はあとが、はろー！

頒布価500円(送料別)

をまるで子供扱いするという、逆の上下関係になってしまふ危険性があるのです。

〈サロン・あべの〉は、その点で健常者と障害者が同じ運営委員として、対等な関係で意見を出し合うことができる、とても貴重な場であると思います。

逆に、ボランティア活動を、車椅子を押すといった具体的な介助としてしか、とらえられない人もいます。この段階の人が、もし〈サロン・あべの〉の運営委員になったとしても、何もする事が無いと感じてしまい、きつと物足りなく感じるはずで

単なる自己満足ではなく、健常者と障害者が対等な関係を保ちつつ、共に活動をするという〈サロン・あべの〉は、健常者にとっても、究極のボランティア活動ではないでしょうか。

一般参加の障害者。この人たちにとって〈サロン・あべの〉は、とても居心地の良い場所です。興味深い講演が聴ける上に、色々な出会いがあります。自分自身の意見を発言することもできます。

彼らのほとんどは、自分自身の可能性を模索している状態です。「障害者でもでき

る事」を探している段階です。生産効率を最優先するような社会からは、はみ出してしまったものの、社会的な矛盾に挑んで行くこうとしているのです。

そんな彼らに必要なのは、様々な経験です。あらゆる方向にアンテナを張り巡らし、あらゆる機会を通じて、知識と経験を得る必要があります。〈サロン・あべの〉の出会いに参加するのも、ひとつの経験です。その中で、「自分にできる事」「自分だからできる事」を発見しようとしています。

〈サロン・あべの〉の出会いで取り上げるテーマは、実に多様です。例えば、昨年七月のテーマは「タイ人によるタイ料理教室」でした。こうした障害者問題とは直接関係の無いテーマで、出会いを開催する場があります。一般の健常者が、新聞の催し欄等を読んで、全く予備知識の無いまま参加してくるのが、こういうテーマの時なのです。初めて〈サロン・あべの〉に参加した健常者は、まず、障害者の存在に驚きます。そして、その発言に驚き、その明るさに、また驚かされるようです。一回限りの参加で終わってしまう人もいますが、ほ

とんどの人は、定期的に参加をするか、もしくは、「サロン・あべの」紙の読者となって、関わりを持ち続けてくれています。

継続して参加している健常者が、障害者問題に関して、とくに興味があるわけではないと思います。一般の文化講座を受講するのと同じような感覚で、気軽に参加しているのです。でも、そういった本人の意識とは別に、何度も参加しているうちに、同じ参加者である障害者への、接し方に変化が現われてきます。最初は戸惑っていましたが、対等な立場から障害者の行動や考え方に触れる事で、障害者という存在が自然に受け入れられるようになっていくのです。

「あべの」の活動を通して、障害者も変わっていきます。ね。



★自分の悪と向かい合う

「ジキルとハイド」という物語はよく知られているだろう。誰からも尊敬されているジキル博士は、実は内面の自分の悪の存在に悩んでいた。そこで薬でそれを無くそうとしたら、逆に悪の権化のようなハイド氏を別の人格として作ってしまった。たしか、そんな筋書きだった。

この物語が教えるものは、おそらくどんなに立派だと思われている人にも悪の心はあること。そして、人はそれぞれ自分のなかの悪と向かい合うしかないということだと思う。

ここ数週間、未成年の男性たちが恐ろしい犯罪を繰り返している。その報道に接するたびに、私はこの物語を思い出す。私たちは、ますますこれから自分のなかの悪と向かい合い、それをいわば「飼いなす」ことを学ばなければならぬのではないか。

人は、その歴史のほとんどを、残忍

な刑罰を処する強い支配者のもとで生きてきたのだろう。悪は、そのような支配者への恐怖から抑えられていた。



しかし、いま、この地には幸いなことにそのような暴君はいない。完全なものとはいえないまでも、歴史的には、人権が守られ、自由が保障された社会

に生きている。

また、これまでの人々は互いに寄り添って生きるしかなかった。狭い生活圏のなかで、どこに行っても誰かの目があり、日常のなかで知らない人に出会うことはほとんどなかっただろう。人を傷つければ、すぐにその痛みが伝わるほどの距離に、人々は集まって暮らしていた。

たとえば私の子どもころと比べても買物物の風景は一変した。店の人身近な世間話をしながら、買物物をすることが、当時はまだ残っていた。いま私の周囲は大型店ばかりで、客と店員との人間的なつながりはどこにもない。黙ってモノを差し出し、金を払うだけだ。

あと数十年もたてば（ひよっとして数年後には）、テレビ画面に少し触れるだけで、物を買える時代になるだろう。大型店では、互いの顔は見えてい

たわけだが、今後は顔も見えない関係になるわけだ。

いまは隣近所の人の顔もわからない状況だが、あと数年たてば情報機器が発達して在宅勤務が増え、同じ職場の同僚でも顔を知らないことになるかもしれない。そうなれば孤島で一人生活するように、都会のなかで働き、生活する人が増えてくるだろう。

誰の監視もない、罰する恐ろしい支配者もいないなかで、すべての人は自分のなかの悪にたった一人で向かい合わなければならぬ。それでも年配の人たちは「誰かが見ている」「誰かに叱られる」という感覚が残っているだろうが、これからの世代の人たちにはそれが無い。

自力で、恐怖心もなく、孤立したなかで自分の悪を抑えることは、どんなに難しいことか。しかし、時代が人間に求めているのはそういう自制的心なのだ。

(知)

山笑う

先日、夜来の雨もあがり朝からまぶしいほどの日がさす暖かい陽気だったので、私は久々に車いすで近くの公園に行きました。そして入口を入ってすぐ左側のベンチの横に車いすのブレーキを止めて休むことにしました。

その日は休日だったので大勢の子供たちが春の日ざしをいっぱい浴びながらぶらんこやすべり台で遊んだり、園内をかけ回ったりしていました。どこまでも広がる青い空も流れ行く白い雲も木々の緑も、子供たちに負けないくらい楽しそうに踊っています。

目をひょいと遠くに転じると、少し霞んでいたものの生駒山は萌黄色に映え、すっかり春の装いです。春の芽吹きはじめた華やかな形容を「山笑う」といいますが、生駒山も冬の淋し気な

晴れのち晴れ

②0

稲垣 恵雄

表情とちがって、やさしい笑顔をこちらに向けていました。

「山笑う」というのは、俳句の季語にもなっています。

俳句といえば坪内稔典氏の次のような言葉を思い出しました。

青春の楽しさとはかなさを

「池塘春草の夢」という。池塘

とは池の堤。この表現は朱熹の

偶成詩にある。池の堤の春草の

中で眠り、楽しい夢をみている

間にすでに秋がしのび寄っている。

だから若い時に学問に励め

と朱熹は詠んだ。

朱熹のこの詩に誘発？された

のか、いつのまにかうとうとと

眠り、夢の世界に入っていました

た。その夢の中でこんな駄句が

浮かびました。

両手あげ大あくびして山笑う

恵雄

植物あれこれ

第十六回

山口康二郎

「植物は考える」

——植物も会話している——①

「人間は植物を自らの存在よりも下等なところに位置づけようとする傾向がある。

植物には何十年、何百年もの間成長し続ける樹木をはじめ、人間よりはるかに長い年月生き長らえる能力をもっているにもかかわらずである。」

東大教授植物学者の大場秀章氏の「植物は考える」という著書には、人間のスケールを超えた植物の能力について興味深いことが書かれています。「植物も会話している」もその一つです。会話とは人間中心に考えると、言語を用いて交わす行為、視線や身ぶり手ぶりで、物ごとを訴える行為を指します。しかし、植物には目や耳、口に該当するものがありません。どういう方法でコミュニケーションするかが問題となつてき

ます。

現段階でわかつてきたことは、植物には特定の感覚器官はありませんが、あらゆる部分が感覚器官になっているといわれています。

それでは、植物のどういう行為がコミュニケーションに該当するか、情報伝達のために用いる一番大きな手段は光の利用です。

植物が生きていくために、光は最も大切なことです。芽生えた種子は基本的に光合成を行うことによつて成長していくものですから、枝を他の木より上に広げた木は、他の陰になつた木を枯らしていきます。このサバイバル競争の中で、木と木の間で何らかの情報収集の能力を使っているという論文が一九九〇年に発表されています。実験に使われたのは雑草のスベリヒユで、驚くべきことに植物同士がふれ合う前に互いにそれを避けることが証明されたのです。



つまり互いに、ある光によつて相手を認識し、接触を避けるという行動が行われているということです。このような現象は、植物の代わりに緑色の小さなプラスチックのブロックを置いてみることも起きることがわかり「フィトクロム」という色素が関わっていることがわかつてきました。光や光の波長

の違いを通じて行うコミュニケーションはどの植物もが、共有しているものだと考えることが出来るといわれています。

自らが動くことができない植物は成長段階で健康かつ格好の位置を確保したものだけが生き残れる厳しい世界なのです。

一見でたらめに生えているように見える森でも、木々は光という共有の情報に基づいて適所に生えているのです。

さて、植物がコミュニケーションを行う手段は光だけではありません。次回はそれについて書いてみたいと思っています。

（あべの）の植物を育てる
「用書は横読みします。」

感謝

カンパ、はがき、切手、お菓子等のご寄贈を、また、サロングッズのお買い上げありがとうございます。

大野 淑、岡 賀寿子、風 智恵子、

砂脇たけ子、田中美佐保、田中美智子、

田村昌子、東谷和代、松田峯子、

吉原和郎、その他の方々

ききみみずきん

縦読みと横読み

手前味噌で申し訳ありませんが、「サロン・あべの」紙は読みやすいと多くの方に言われています。それは寄稿くださる文章に魅力があるからで、もう一つは紙面のレイアウトにあると考えていますが、そればかりではないように思いました。と言いますのも、先日なげなく横書きの会報を斜めにおいて読んでみると、思いのほか読みやすいことを知ったからです。サロンには、十数のグループから会報が送られてきます。その中には二十頁のものもあり、内容豊かで読みごたえがあります。しかし、あまりにぎっしりと書き込まれた紙面は、読むのに目が疲れてしまいます。本を読むの

が好きで目の疲れなど感じなかつた私ですが、最近はとみにそれを感じます。年齢のせいと半分あきらめの気持ちでしたが、それらの会報の印字はたいいてい横書きになっています。横書きも一頁に二列なら目の流れも短く読みやすいですが、一行に四十字以上のものもあり、その上行間が狭いと次の行に移る時目が泳いでしまい、その行を捜すのに時間を要します。一瞬の間ですがその繰り返しは、疲れを誘います。その点、縦書きの文章は、少々長くても目が自然に流れて読みやすいように感じます。大切な情報を苦勞して発行されているのですから、横書きの紙面はせめて二列で、適度な行間のあるものであってほしいと希う昨今です。

(け)

美智子のこんな話

岸田美智子

6月17日はピア・カウンセリングの話を：

6月にお話いたします「ピア・カウンセリング」は、決してその道の専門家や専門的知識を持ち合わせた人が必要としません。「ピア・カウンセリング」では、むしろ、専門家になること、専門的になることには否定的な立場をとっています。

「ピア・カウンセリング」の「ピア」とは「仲間」とか「対等」という意味で、その仲間も同じ立場にいたり、同じような状況を抱かえているなど、ある一定の条件を

共有している者同士のことを「ピア」といっているわけです。すでにお察しのことと思いますが、障害者の世界で言う「ピア」とは、他ならぬ、障害者自身を指して言っているわけなのです。

したがって、「ピア・カウンセリング」とは、同じ背景を持った者同士であるところの障害者が、お互いにカウンセラーとクライアント（相談者）になりながら、対等な立場に立って、時間を分け合って、悩みや苦しみを話し、聞き合いをすることによって、お互いに心を開いていき、自己信頼を取り戻し、自己選択や自己決定をする能力を高めていく方法のことを言っているわけです。

よく似た経験を持つ者同士だからこそ、互いの悩みや苦しみを自分の問題として理解でき、クライアントが必要としているサポートも的確にできるわけです。

「ピア・カウンセリング」とは、一言でいえば、同じ背景を持った者同士が同じ目線で対等な立場で話を聞き合い、サポートしあうことなのです。



❖❖❖ お知らせ ❖❖❖

<サロン・あべの> 6月の出会い

日時 …6月17日(土)午後1時～4時

場所 …育徳コミュニティーセンター
2階研修室(スロープ・車いす有り)

[阿倍野区阪南町5-15-28]

内容 …もう一度、
ピア・カウンセリングについて

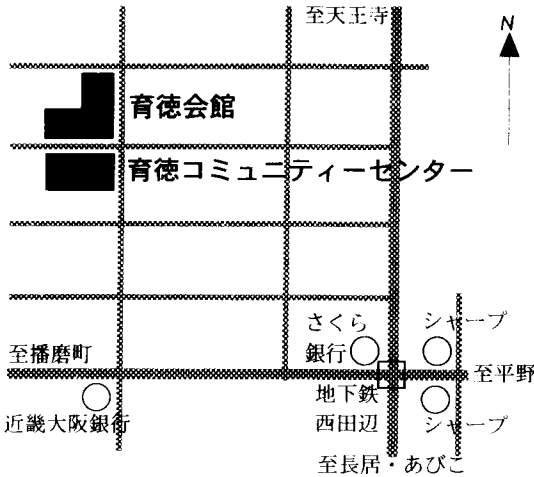
パネラー…岸田 美智子 氏

MY-DO～まいど～代表

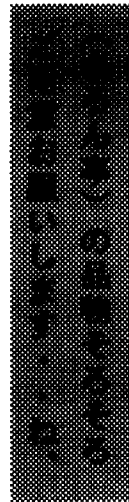
会費 …なし

お問い合わせ先…

TEL06-6691-1028 (富田慶子)



当日は、その実体験を参加者のみなさんと実践していきたいと思えます。
「ピア・カウンセリング」は自分自身を再生させる、もつとも、シンプルな方法だと言われています。一人でも多くの方の参加をお待ちいたしております。
○連絡先|| 自立生活センター・



MY-DO(まいど)
大阪市住吉区长居西1-9-12
(キミハウス1階)
TEL・FAX(06)660913133
担当|| 紙谷・岸田



- 朗読グループ「ほけつと」のご協力で(サロン・あべの)紙一六六号の録音テープ(六〇分)が出来ました。
- 朗読テープ文庫
- I (サロン・あべの)紙は、第一号より一六六号までそろっています。(五〇号は九〇分と六〇分の二本のテープに、一〇〇号は一二〇分テープ二本)
 - II (サロン・あべの)十周年記念誌「はーとが、はろー!」(九〇分テープ二本十二〇分テープに収録)
 - III 絵本「未知の記憶」(作・絵 中川勝彦)
 - IV 「ラジオたんぱ」放送『(サロン・あべの)平成七年五月の出会い』放送分(三〇分)
 - V エッセー集「逃げた『ヨナ』」ポランディア活動の周辺(岡本栄一著||糸でんわ音訳)
 - VI 「キミたちだけじゃ困るんだ」身障者だけで旅した十余年(山田誠1995・2・22著 ||糸でんわ音訳)
 - VII 「金子みすずへの旅」(島田陽子著・九〇分テープ二本||糸でんわ音訳)
 - VIII 「夕やけ空のオニヤンマ」(牧口二著・九〇分テープ四本||糸でんわ音訳)
 - IX 「ガベちゃん先生の自立宣言」(曾我部敦子著・九〇分テープ五本||糸でんわ音訳)
 - X 「セルフヘルプグループ」(岡知史著・九〇分テープ二本十二〇分テープ||糸でんわ音訳)
- いずれもご希望の方には、ダビング、または貸し出しをしますので、富田までお申し出ください。
- (☎)六・六六九一・一〇二八

アメリカからのお便り

3-18-00

Dear Keiko:

It was so nice to get your letter. I do enjoy getting them.

We had some very nice weather, in the 60's. Then we got 2 big snowstorms. Hopefully Spring will be here soon.

Mr. Ma doesn't write you in English? Who translates his letters? He is a very nice man. I enjoy his letter very much.

In your information paper "Saloon Abeno" is it for all disabled people or for those with Arthritis? If it is for all disabled would see if they would print:

I have a disease Relfex Sympathic Dystrophy - it can cause heart problems that feel just like a heart attack. Please have the Dr's check to make sure it is not a heart attack.

I have written many articles about coping, I will send my new one. Maybe someone will be able to translate it and put it in the paper. The most important things I believe about living with a disability are:

Learn all you can about your health problem.

Work with your Dr's.

Try to do what you can and if needed take breaks.

Meditate, get fresh air, exercise, eat well, try to have a good attitude.

Have a support group: in person, by mail or phone whatever is best for you.

Yes we have long winters here. Usually it gets cold and may snow in October and stays until the end of March.

Yes it can get very hard to go out in the cold. The cold can make my pain worse. I am glad when spring comes.

I hope you are doing well and enjoying some sunshine.

Take Care,
Patti

2000年3月18日

親愛なる慶子様

あなたからお手紙をいただくのは本当にありがたく、いつも楽しみにしています。気温60度台(華氏)の素晴らしい天候が続いたかと思ったら、2回も吹雪に見舞われました。早く春が来ればいいのですが。

馬さんはあなたに英語で手紙を書いてこないのですか? どなたが手紙の翻訳をされるのですか? 彼は本当に素晴らしい人です。私は彼からの手紙を楽しみにしています。あなた方の情報紙「サロン・あべの」は、障害者一般が対象ですか。それとも、関節炎の患者だけが対象ですか?

私は反射ジストロフィーという病気をかかえています。それは、ちょうど心臓発作のように感じられる心臓疾患の原因にな

ります。心臓発作ではないことをはっきりさせるために医者に診てもらうことが必要です。私は対処法について多くの記事を書いてきましたので、新しいものをお送りします。その中には、翻訳して「サロン・あべの」紙に載せられるものもあると思います。

私が、障害と共に生きていく上で最も重要だと思うこと

- ・自分の障害について、できるだけ多くのことを学ぶこと。
- ・かかりつけの医者との相談をかかさないうこと。
- ・自分に出来ることを心がけ、無理をしないこと。十分な休息を取ること。
- ・瞑想、新鮮な空気、エクササイズ、十分な食事、おだやかな態度。
- ・直接会ったり、手紙や電話で相談に乗ってくれるような支援グループを持つこと。

おっしゃる通り、こちらの冬は長いです。たいてい、10月には寒くなって雪が降り、3月の終わりのころまで残っています。そして、お察しの通り、寒くなると外に出かけるのが大変やっかひになります。寒いと痛みがひどくなります。そんなわけで、春が来るとうれしくなります。

あなたがお元気で春の日差しを楽しめるように願っています。

ご自愛ください。

パティ

訳=林 正弘



サロン隣組ニュース

■「サロン淀川」6月の出会い

日 時：6月18日(日) 午後1時30分～4時
場 所：「やすらぎ」大阪市淀川区三国本町2-14-3
テ ー マ：気の向くままに物作り
～物作りの面白さをお楽しみください～

パネラー：坂本義雄氏

車椅子で西日本横断の体験、
西成区にて創作活動中

会 費：なし

問い合わせ先：淀川区社協(ボランティア・ビューロー)
☎06-6394-2900

■「サロンつるみ」6月の出会い

日 時：6月4日(日) 午後1時30分～4時
場 所：「大阪市立鶴見会館」
大阪市鶴見区横堤5-5-51

テ ー マ：木にいのちをふきこむ

パネラー：西浦清輝氏

彫刻家

会 費：なし

問い合わせ先：鶴見区社協(ボランティア・ビューロー)
担当=藤井 ☎06-6913-7070

■《てくてく・すみよし》6月の出会い

日 時：6月10日(土) 午前11時～午後3時
場 所：住吉区在宅サービスセンター3階
「いきいき」
大阪市住吉区浅香1-8-47
☎06-6607-8181

内 容：2000梅雨どきイベント
お好み焼きジュージューに集合！
第2弾 お好み焼きで梅雨をふっとばそう！

会 費：¥2000

申し込み締切：6月5日(月)

問い合わせ先：山本薫江 ☎06-6692-8411

■「サロン『アイ』」6月の出会い

日 時：6月10日(土) 午後1時30分～4時
場 所：「おかちやま」2階ボランティアルーム
大阪市生野区勝山北3-13-20

生野区在宅サービスセンター

☎06-6712-3101

内 容：車椅子を翼に変えて
～頸椎損傷者の自立～

パネラー：西田清美氏

会 費：なし

問い合わせ先：生野区社協(ボランティア・ビューロー)
☎06-6712-3101

■「サロンいたみ」6月の出会い

日 時：6月24日(土) 午後2時～
場 所：伸幸苑
伊丹市寺本6-150

内 容：アロマテラピー

会 費：なし

問い合わせ先：西原(19時以降)
☎0727-79-4078

■「サロンひらの」6月の出会い

日 時：6月24日(土) 午後1時30分～4時
場 所：にこにこセンター
大阪市平野区平野東2-1-30

内 容：魅力的な広報・チラシの作り方について

パネラー：中村一孝氏

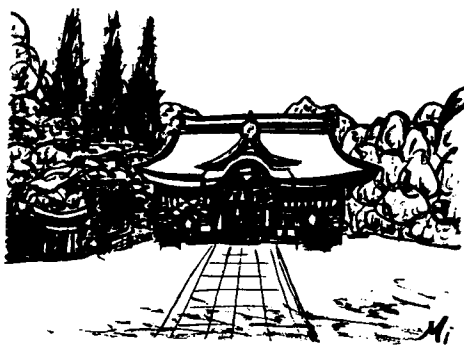
会 費：なし

問い合わせ先：平野区ボランティア・ビューロー(大西)
☎06-6795-2200

デビュー!

絵葉書

新 わがまち阿倍野



え・石田美禰子

5枚1組 180円

サロン・あべのの運営資金にご協力ください。

From EDITOR

編集後記

4月、大阪市立K高校に入学したOさんから、最近始めた手話で、より上を目指すのに国語力の必要性をいわれたのがきっかけで、同じ高校に通う息子さんに背中を押されて、入学を決心したという話を聞いて鳥肌が立った。主婦・学生・スポーツウーマンそして手話通訳士と4足のワラジのたくましいOさん、ブラボー! (石)

編集人; サロン・あべの運営委員会・<サロン・あべの>Vol.167 [H.12. 5.20. 発行] 定価¥100.
代表; 山村貴司〒546-0033 大阪市東住吉区南田辺5-1-18 TEL06-6691-9071
連絡先; 富田慶子〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 TEL・FAX06-6691-1028
表題; 井上憲一・筆 文中イラスト; 石田美禰子
郵便振替口座; サロン・あべの 00950-9-26941
印刷; セルフ社〒546-0044 大阪市東住吉区北田辺町4-23-2ミスタービル2F TEL06-6719-8212